

(1) 研究主題

かかわり 認め合う つながる 道徳科の授業づくり  
～対話によって考えを深める発問の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の理由

昨年度、相手の思いを受け入れ、互いのことを思いやることが難しい児童、困難な問題やトラブルに遭ったときに、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちや考えを受け止めたりすること（コミュニケーション能力）が十分でない児童が多い実態があった。そこで、研究主題を「かかわり 認め合う つながる児童の育成」副題を「～道徳科における『自らのよさや成長を実感できる』終末の工夫を通して～」とし、授業の終末の工夫により、親切、思いやりに対する判断力と心情や実践意欲と態度を育てることを通して、日常の場で親切・思いやりのある児童の育成をめざした。

終末に、キーワードを使って振り返りを書くことを取り入れたり、エピソードや写真などで紹介する工夫を取り入れたりした。また、学校行事や学級活動などに関連を図ったプログラム学習にも取り組んだ。児童アンケートでは、「道徳の学習で考えたことから、友達とよい関係になるように考えた。」「友達がやさしくなったと感じる。」という項目で、肯定的な評価80%以上をめざしたが、ほぼ7割にとどまった。約3割の児童は、「親切・おもいやり」が自他ともに不十分だと捉えていることがアンケートの分析から分かってきた。

そこで、本年度は、研究主題を「かかわり 認め合う つながる 道徳科の授業づくり～対話によって考えを深める発問の工夫を通して～」と設定した。

「かかわり」とは、課題を自分自身の課題と捉え、教材とのかかわりをもつこと、そして、課題を解決するために話し合ったり相手の考えを聞いたり認めたりして、友達とかかわっていくことである。

「認め合う」とは、互いの考えの共通点や相違点を尊重し認め合うことである。話し合う中で、考えが十分でないところに気づき、より良い考えに至るために素直に受け入れることが必要である。

「つながる」とは、友達に対して、相手を思いやり、人間関係づくり・仲間づくりをすること、保護者や地域に対して、感謝と尊敬の気持ちを持って共に活動すること、中学校への進学に向けて、将来への展望を持つことである。

かかわり 認め合う つながる道徳的な判断力、心情を育成するために、今年度は、考えを深めるための対話の場を工夫し、自分の生き方についての考えを深め、物事を多面的多角的に見ることが出来る授業づくりをしたいと考えた。

### (3) 研究仮説

道徳科において、対話によって考えを深める発問の工夫を行えば、かかわり 認め合う つながる道徳的な判断力、心情を育成することができるであろう。

### (4) 検証の視点及び方法

検証の視点	方法	指標
① 児童は、かかわることができたか。	・児童アンケート	・「道徳科の授業において、話し合いをすることで考えが広がったり深まったりした。」と回答している児童 80%以上
② 児童は、認め合うことができたか。	・道徳ノート の記述	・児童の振り返りの中に、友達を肯定的に評価する記述がある。
③ 児童は、つながることができたか。	・I-check	・「友だちの支え」の項目で、「ほめられた」「なぐさめられた」について、1回目と比べて2回目の結果が5P以上向上。

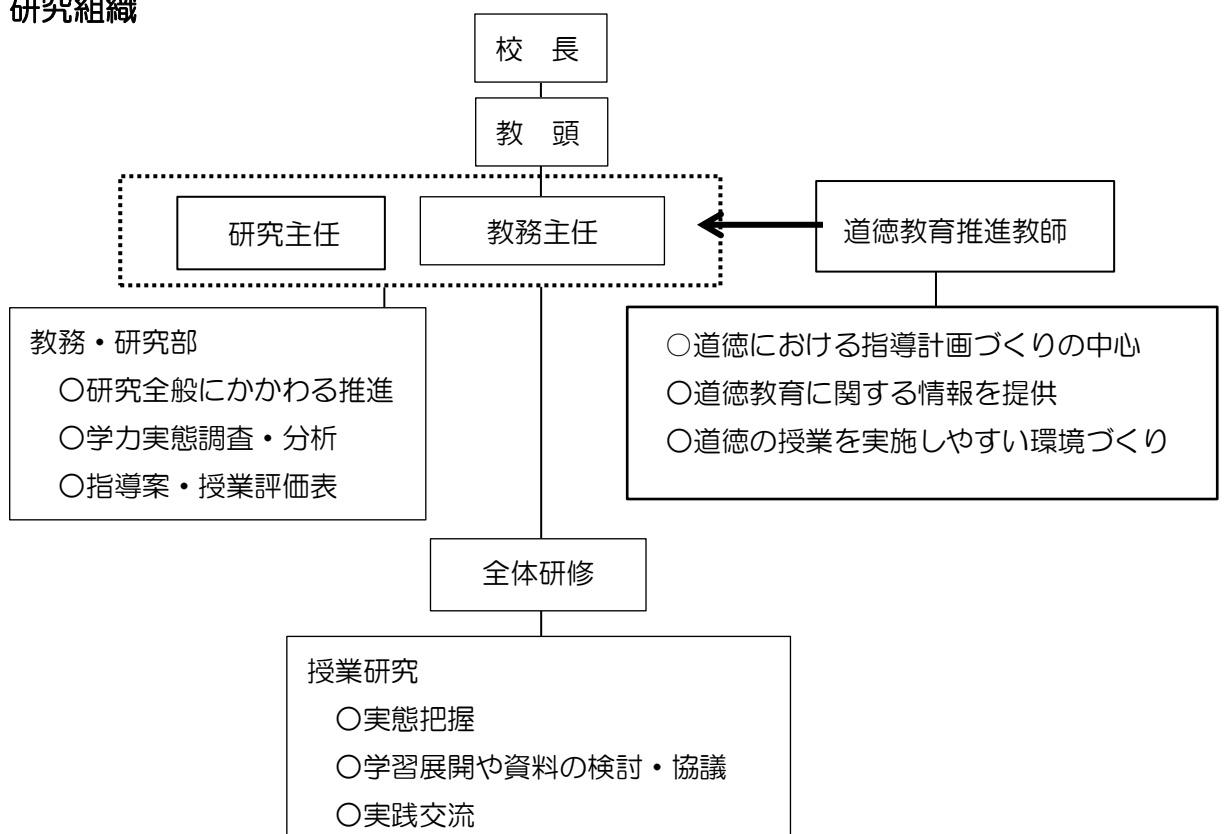
### (5) 研究内容

- 課題発見・解決学習を意図した授業展開作り
- 発問を工夫し、必然性のある話し合いの場を設定する。

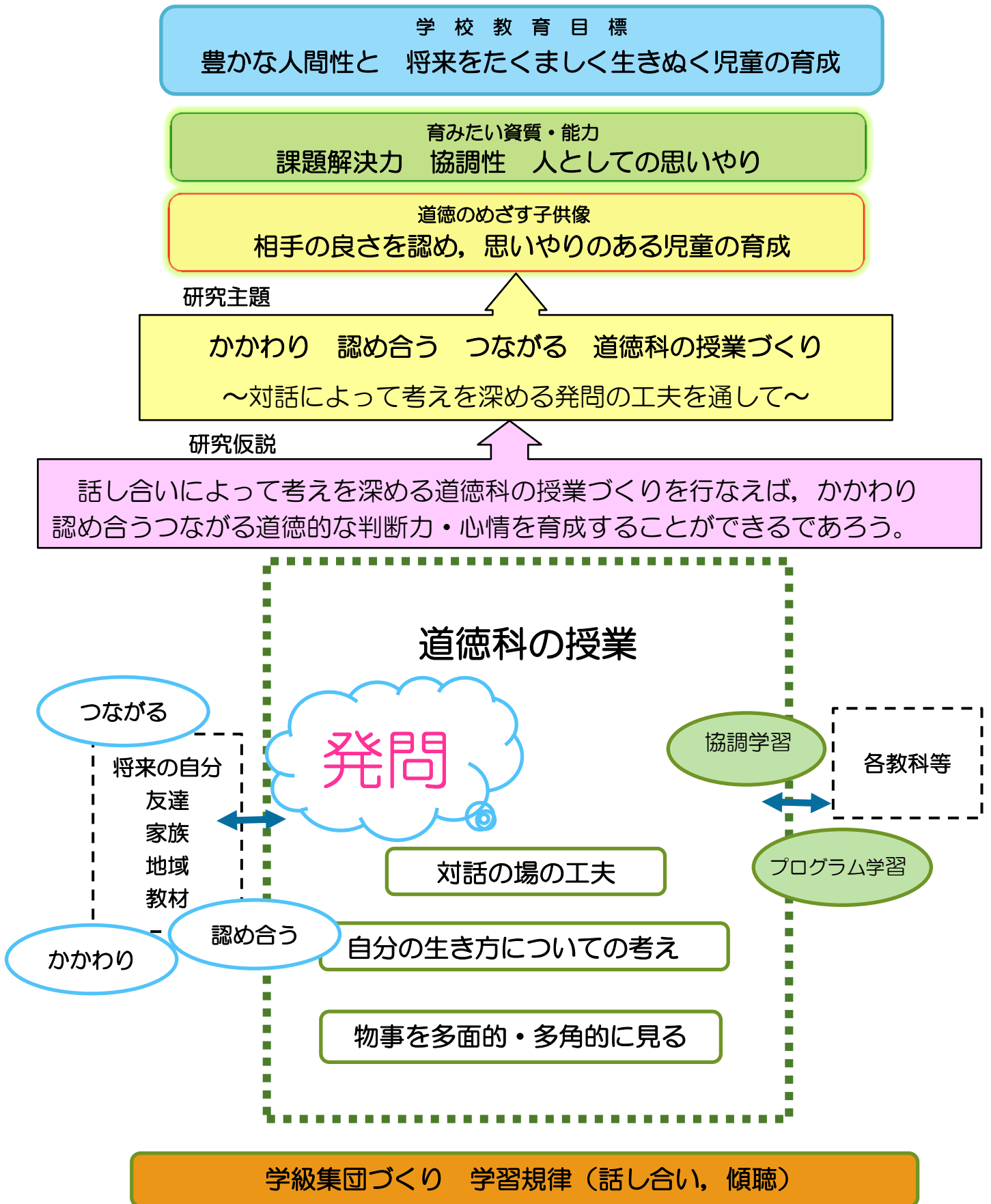
### (6) 研究方法

- ・理論研修
- ・授業研究

### (7) 研究組織



(8) 研究構想図



## (9) 授業観察カード

1 日時 年 月 日( )曜日( )校時

2 教科( ) 単元名( )

3 授業者 年( )教諭 記入者( )

4 評価

4とてもよい 3よい 2 くらい 1かなりくらい

	内 容	チェック欄
1	授業における対話場面の位置づけは適切だったか。	4 3 2 1
2	道徳的価値に迫るために話したくなり、聞きたくなる発問があったか。	4 3 2 1
3	自分の生き方についての考えを深めることができる発問があったか。	4 3 2 1
4	物事を多面的・多角的に見ることができる発問があったか。	4 3 2 1
5	【自由記述】	